

◆研究成果ダイジェスト

アスリートが国民の元気や勇気や活力に与える影響：スポーツ疫学研究

(1)100 字程度の概要

アスリートがメディアを通じて国民に「自分のプレーを通じてみなさんに元気を与えたい」といった趣旨の発言をすることがありますが、**はたして国民の何割に元気を与えているのでしょうか？**

本研究はこの疑問に答える研究です。

(2)これまでの研究で分かっていたこと（科学的・歴史的な背景など）

- ・スポーツには「する」「みる」「ささえる」といった側面があります。
- ・スポーツを「みる」という側面に着目した調査として、「体力・スポーツに関する世論調査」や「スポーツの実施状況等に関する世論調査」があります。
- ・「**体力・スポーツに関する世論調査**」（スポーツ庁: 2013 年）では、国際大会における**日本人アスリートの活躍に対する関心を調査**しており、89%の人が日本人アスリートの活躍に関心があると答えています。
- ・「**スポーツの実施状況等に関する世論調査**」（スポーツ庁: 2019 年）では、**スポーツがもたらす価値を調査**しており、45%の人が「精神的な充足感」と回答しています。
- ・これらのことから、**国民の多くがアスリートの活躍に関心を持ち、また、スポーツから精神的な充足感を得ていると推測できますが**、アスリートが国民の何割に元気を与えているかどうかについては調査されていません。

(3)今回の研究で新たに実現しようとしたこと、明らかになったこと

- ・回答者にスポーツに関する調査であることを知られてしまうと、結果を誘導してしまう可能性があることから、スポーツに関する調査であることを伏せた純粋想起法（※1）によるインターネット調査を実施しました（表 1、表 2）。
- ・調査の結果、**アスリートが国民の 69.8%（95%信頼区間（※2）：66.2－73.4）の人々に元気を与えていることを明らかにしました**（図 1）。
- ・どのような特徴を持つ人にアスリートが元気を与える傾向にあるかを解析したところ、「**60 歳未満の人**」「**学生時代にスポーツをしていた人**」「**スポーツ観戦の経験がある人**」という結果でした（図 2）。

表 1. 対象者

人 数	944 人（有効回答数：619 人）
性 別	男女
年 代	20 歳代，30 歳代，40 歳代，50 歳代，60 歳代，70 歳代
居住地域	北海道，東北，北関東，首都圏，北陸，東山，東海，近畿二府一県，その他近畿圏，中国，四国，九州・沖縄

表 2. インターネット調査内容

調査のタイトル	社会の出来事に関するアンケート
調査の説明書き	この調査は、これまでの人生であなたの心の中に記憶として残っている「活力をもらった」と感じた社会の出来事に関してお伺いするものです。なお、得られた情報は研究成果として使わせて頂くことがあります。個人が特定できないようにし、あなたのプライバシーや人権を十分保護します。第三者への情報開示はいたしません。ご協力をよろしくお願いいたします。
質問内容	あなたが、これまでの人生であなたの心の中に記憶として残っている「元気や勇気や活力をもらった」と感じた社会の出来事（個人的な出来事ではない）を2つ記載してください。
その他の質問項目	主観的幸福度、生活に対する満足度、主観的健康度、主観的体力度、過去1年間のスポーツの実施頻度、学生時代の体育の授業以外のスポーツ実施経験、過去1年間のスポーツ観戦経験、過去1年間のスポーツを「ささえる」活動への参加経験、最終学歴

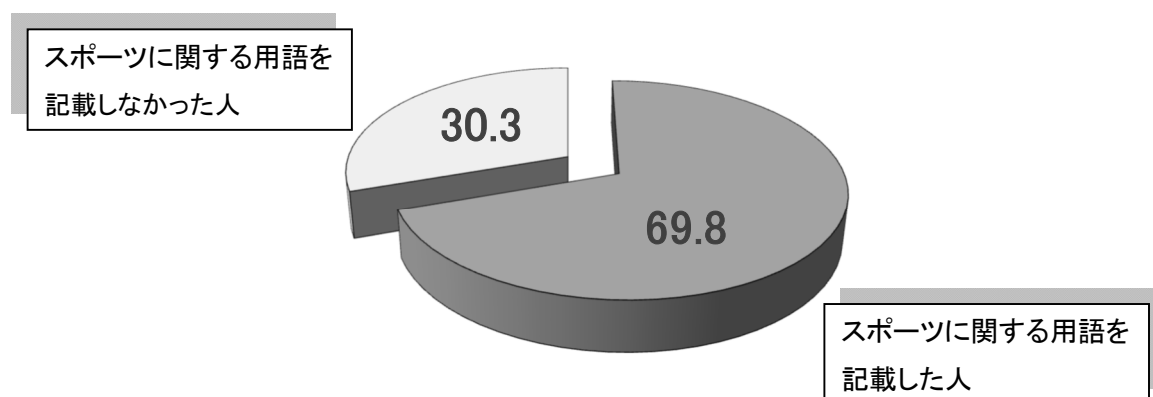


図 1. 「あなたが、これまでの人生であなたの心の中に記憶として残っている「元気や勇気や活力をもらった」と感じた社会の出来事（個人的な出来事ではない）を2つ記載してください」という質問に対する回答において、2つの記載のいずれかにスポーツに関する用語を記載した人と記載しなかった人の割合(%)

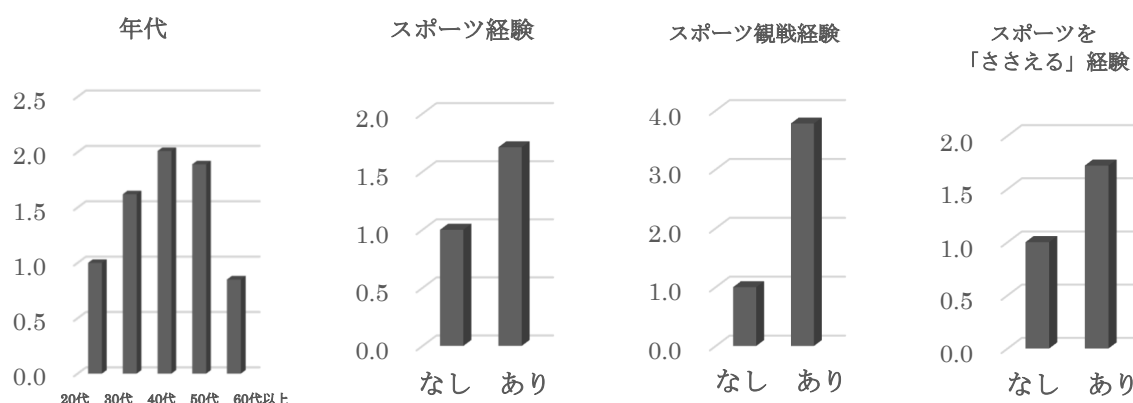


図 2. 「元気や勇気や活力をもらった出来事」に対する回答へのスポーツ記載のオッズ比(※3)

(4)研究の波及効果や社会的影響

- ・本研究の結果は、アスリートがメディアを通じて国民に「自分のプレーを通じてみなさんに元気を与えたい」といった趣旨の発言をすることに対するエビデンス（科学的根拠）を与えるものとなりました。アスリートは真摯にプレーに取り組む姿を通じて多くの人々に元気を与えていました。
- ・本研究の回答者の中には、「1964年のオリンピック（70歳：男性）」「東京オリンピックのバレーボール女子金メダル（66歳：女性）」「1964年の東京オリンピック（69歳：女性）」「前回の東京オリンピック（73歳：女性）」「東京オリンピック 1964（64歳：男性，73歳：男性）」といった記載をはじめ、「侍ジャパンの優勝（50歳：男性）」「長野オリンピック（61歳：男性）」「柔道の山下選手の金メダル（48歳：女性）」「リオオリンピック（29歳：女性）」「なでしこジャパンのワールドカップ優勝」（24歳：女性）」「イチローのメジャーでの活躍（60歳：男性）」「札幌オリンピックで1-3位ジャンプで独占（62歳：男性）」といった、すでに長期間が経過している出来事が記載されていました。アスリートの活躍やプレーに取り組む真摯な姿は無形のレガシー（遺産）となって人々の心に残り、そのひとを励まし続けている可能性があります。本研究の結果は、コロナ禍の中でトレーニングを続けるアスリートだけでなく、コロナ禍の中でスポーツイベントを運営したり、ボランティアとして運営を支える人たちが元気を与える結果だと考えられます。
- ・本研究から、「60歳未満の人」「学生時代にスポーツをしていた人」「スポーツ観戦の経験がある人」がアスリートから元気や勇気や活力を与えられやすい可能性があることが示されました。どのような人々に

(5)今後の方向性

- ・これまでに私たちの研究グループは「みる」スポーツの健康効果を明らかにしています（野球観戦が高齢者の健康に与える効果：<https://www.waseda.jp/top/news/65928>）。
- ・「みる」あるいは「応援する」スポーツにはさまざまな健康効果や心理的效果があると考えられます。しかしながら、この点について調査した研究はまだまだ少ない状況です。私たちは今後も引き「みる」あるいは「応援する」スポーツの健康効果や心理的效果を確認していく予定です。

(6)用語解説

- ※1 純粹想起法： 調査対象者にヒントや情報を与えないで回答していただく方法。
- ※2 95%信頼区間： 「調査によって知りたい値」が95%の確率でこの範囲の中にあるという区間。
- ※3 オッズ比： ある因子（環境・食事等）がある病気の原因であると仮定したとき、その関連の強さの指標。オッズ比が高いほど、その因子と病気の関連性が高いことを示します。

(7)発表情報

1) 論文発表

論文タイトル：アスリートが国民の元気や勇気や活力に与える影響：横断研究

掲載学術誌名： イベント学研究

執筆者(所属機関)： 郡山さくら（早稲田大学）、長阪裕子（早稲田大学）、渡邊夏海（東京 YMCA 社会体育・保育専門学校）、澤田亨（早稲田大学）、川上諒子（早稲田大学）、王棟（早稲田大学）、丸藤祐子（駿河台大学）、石井香織（早稲田大学）、間野義之（早稲田大学）、

岡浩一郎（早稲田大学）、萩裕美子（東海大学）

掲載日： 2022 年 3 月下旬（予定）

以上